

第3回総合計画審議会

基本構想(案)、基本計画(素案)に対する意見整理

No.	項目	意見	委員	事務局回答・対応	担当課
1	基本構想P9 3-(2)まちの将来像	案3「未来へ広がる空と海、笑顔で人が集うコンパクトシティ」を基軸に事務局で検討		P9 候補案「未来へ広がる空と海、笑顔が集うコンパクトシティ・たじり〜ゆとりと豊かさ、安心を次世代につなぐ」	企画人權課
2	基本構想P11 4将来人口			P11 2019年10月現在の人口に基づき将来人口を再推計した結果に基づき、記述内容、人口推計グラフを更新した。	企画人權課
3	基本構想P16 5-(2)5)農と街の共生エリア	方針「都市的土地利用を含め、新たな土地利用のありかたを検討します。」を修正		方針「新たな土地利用のありかたを検討します。」に記述を修正。	企画人權課
4	基本構想P19 基本政策3、3-2住宅・住環境	基本計画P25 3-2住宅・住環境の「周辺環境との調和や緑化などに配慮した適正な宅地開発の誘導」記述と整合を図る。		「住宅ニーズに対応した良好な住宅・宅地供給の誘導に努め、」を「周辺環境との調和や緑化などに配慮した適正な宅地開発の誘導に努め、」に記述を修正。	企画人權課
5	基本構想P19 基本政策3、3-3生活環境	基本計画P27 3-3生活環境の「激甚化する風水害に対する浸水対策」記述と整合を図る。		「、激甚化する風水害に対する浸水対策」の記述を追加	企画人權課
6	基本構想P21 戦略プロジェクト	戦略プロジェクトの説明の修正		「分野別の基本政策に示す個別施策を一体的・効果的に組み合わせパッケージ化することで、施策を相互に整合・連動させ、より大きな効果をめざすものです。このため分野横断的に取組むことが必要です。戦略プロジェクトの実施にあたっては、プロジェクトリーダーを定め、関係課が定期的にプロジェクト会議等を開催し、プロジェクトの進行管理と評価をおこない、総合的に施策展開を図ります。」の記述を追加	企画人權課
7	基本構想P21 戦略プロジェクト	(候補案) 「②まちを楽しむひとづくり」、「③みんなで地域を支える仕組みづくり」を統合し、一つのプロジェクトとした。		(候補案) 「②みんなでまちを楽しむ、地域を支えるコミュニティづくり」に変更。	企画人權課

8	基本計画P2、3 1-1次世代の育成	子育て支援体制の充実で、若い世代の転入を増やすようなものが必要だ。地域で子どもを育てるような施策や「親子が気軽に交流できる場の充実」が大事だ。	増田会長 (事前説明)	子育て支援センターやファミリーサポートセンターの充実は、地域全体で子どもを育てていくことにつながる。 【事務局】 第2期田尻町子ども・子育て支援事業計画(案)の基本目標で「子育てと仕事の両立を図る地域における子育て支援」を設定し、子育て支援センターや子育て支援に関する情報提供体制の充実など様々な支援施策の充実を図ることを目標としています。【こども課】	こども課
9	1-1次世代の育成	今町内の保育所は1か所か。りんくうの中の企業で事業所内保育所を持っている企業はあるのか。例えば駅前やりんくうタウンの働く職場の中での保育(託児所)の充実などは考えられるか。	増田会長 (事前説明)	本町域内には町立保育所1園のみであり民間保育所、事業所内保育所はありません。 第2期田尻町子ども・子育て支援事業計画(案)でのアンケート調査による保育ニーズ量の見込みを算出しておりますが、町立保育所及び幼稚園、近隣市の幼稚園・保育所・認定こども園の広域利用により充足できるものと考えております。【こども課】 (稲本委員意見) 早朝、夜間の時間帯の受入の検討が必要。 ファミリーサポートセンター事業の充実	こども課
10	1-1次世代の育成	田尻町にはりんくうという就労の場があるから、働くことと生活することが一体化できる強みがある、就業の場が近所にある、通勤時間帯の負荷がない、女性にとって働きやすい、若い人には通勤時間が非常に短いことは、子育てやワーク・ライフ・バランスにとっても良いという審議会での意見があった。そういうことがうまく盛り込まれているか。	増田会長	就労の場と生活環境の一体化ができる強みを活かすため、就労希望等により保育を必要とする家庭のニーズに対応すべく、保育所や一時預かり事業等の保育サービスの充実を図っております。【こども課】	こども課
11	基本計画P4、5 1-2学校教育	学校教育の中では、戦略プロジェクトにつながっていくように、保幼小中一貫の中で校舎の拡大・建替と地域活性化のようなニュアンスの記述があってもいいかもしれない。「教育施設・設備の充実」で地域への波及効果のようなことがうまく盛り込めたらいい。	増田会長 (事前説明)	(2)「①施設・設備の充実」に「・将来を見据えた学校施設の建替検討」を追記【学事課】 P5 (2)「①施設・設備の充実」に「・保・幼・小・中一貫教育を目指した施設整備の検討」を追記【指導課】	指導課 学事課

12	1-2学校教育	【No.11】関連 「保幼小中一貫教育の実践」の中でカリキュラムの充実や連携推進などがあるが、設備の充実は必要ないのか。当初から小中一貫校を目指したわけではなく、たまたま同一敷地内にあったということなので、それを本格的に転換していこうと思うと施設設備の充実が必要なのではないか。小中一貫校にしては少し面積が狭いので、校舎の増築や面積拡大などは書けないか。	増田会長	小中一貫校制度の導入の検討の中で、(2)「①施設・設備の充実」で明文では記載していないが一貫校としてふさわしい環境整備は必要になってくると考えている。 【事務局】 (2)「①施設・設備の充実」に「・将来を見据えた学校施設の建替検討」を追記【学事課】 P5 (2)「①施設・設備の充実」に「・保・幼・小・中一貫教育を目指した施設整備の検討」を追記【指導課】	指導課 学事課
13	1-2学校教育	学校側からの取り組みをするのに、平日の昼間の事業が多いと思うが、母親と父親が共働きで、父親の参加を促すのであれば、土日祝日を利用して、その分は平日を休みにするかたちで、もう少し柔軟に学校のカリキュラムも変えていけたらいい。母親が中心にやってきた教育が、父親の参画があつていろいろ働きかけができていくのではないかと思う。	横上委員	参考意見	指導課
14	1-2学校教育	教育の問題だが、総合計画で策定して、教育委員会がそれほどの程度受けてくれるのかをきちんとしておかないといけないと思う。先生の世界は独特の世界で、なかなか入っていけないところがある。中学校にテニスを教えに行くと断られたという人もいた。総合計画に基づいた行動について、教育委員会で受け入れていく素地を作ってもらわないと、実際には行政以上に教育委員会は受け入れにハードルが高いと思う。もう少し教育委員会に対してプレッシャーになるような文言があつた方がいいと思う。	×野委員	参考意見	指導課
15	1-2学校教育	本当の意味で教育委員会が受けてくれるような状態になっていないと総合計画に書いただけでは文言だけになってしまうという指摘だった。そういう視点でもう一度見てもらいたい。	増田会長	参考意見	指導課

16	基本計画P4～7 1-2学校教育/1-3 生涯学習(スポー ツ)	以前、総合型地域スポーツクラブの話を出したと思うが、今は授業の中での必修クラブの小学校のクラブ活動が、一貫教育をすることによって、外部コーチ制度での指導を早くから受けることができらばと思う。サッカーや卓球など今人気のあるスポーツは指導者が不足している。早くから幼稚園や保育所、小学校から中学校につながっていけるように、学校の先生に限らず専門的な指導者を誘致できて、それをもとに学校教育の充実も図っていただけたらいいと思う。	横上委員	総合型地域スポーツクラブは、ジャンルとしては生涯学習に入るが、実際には学校教育のクラブとシームレスな部分があると思うので、そこをどうするか内部で検討したい。【事務局】 P7 1-3生涯学習(2)「①生涯スポーツ活動の推進」に「・学校部活動と生涯スポーツとの連携等の検討」を追記【指導課】 総合型地域スポーツクラブは、地域の方で指導者やスポーツクラブの運営を行い進めて行くもので、その活動を行う上で学校のクラブとの連携が考えられるが、現在本町に総合型スポーツクラブはありません。 学校クラブの活動における指導者の確保については、外部コーチ制度の活用を検討していただきたい。【社会教育課】	指導課 社会教育課
17	基本計画P6、7 1-3生涯学習(ス ポーツ)	生涯学習で健康づくりはやっていないのか。スポーツの推進でウォーキングやジョギングなど、歩いて暮らせる町を健康とつなげていくものかあるとよい。	増田会長 (事前説明)	P7 (2)スポーツ推進「④指導者の育成・確保」【内容】・スポーツ推進委員など指導者の育成と資質の向上、相互交流の促進 ※スポーツ推進委員の資質の向上と相互交流の促進で健康分野との連動を含んだものと考えています。 【社会教育課】 スポーツの推進としては、健康課では、ウォーキング及び健康教室等の参加による「健康ポイント事業」の実施、シティープロモーションにより制作された「たじりっち体操」の普及促進、住民団体では町全体の健康づくりを考え活動する「元気トライ隊」と協働して健康づくりを図っているところである。【健康課】	社会教育課 健康課

18	基本計画P6、7 1-3生涯学習(スポーツ) 基本計画P15、16 2-2健康づくり 基本計画P17、18 2-3高齢社会・障害福祉	介護の現場での病後措置としてのレクリエーションの指導者が不足している。高齢化社会で介護レクリエーションの時代なので、スポーツリーダーの記載はあるが、健康と連動することが何かできないかと思う。指導者がどこも不足して、育成がなされていない。レクリエーション介護士などの民間資格ができていたので、そういうことを積極的に取り組むことがあっていいと思う。	稲本委員	P7 (2)「④指導者の育成・確保」【内容】・スポーツ推進委員など指導者の育成と資質の向上、相互交流の促進 ※スポーツ推進委員の資質の向上と相互交流の促進で健康分野との連動を含んだものと考えています。 【社会教育課】 住民への健康指導は「健康運動指導士」により行っているところであるが、「たじりっち体操」の普及促進には、「たじりっち体操推進員」を育成しているところである。【健康課】 P18 2-3高齢社会・障害福祉(1)「④介護予防と健康づくりの推進」に「・介護予防・健康づくり推進のための人材育成」を追記【福祉課】	社会教育課 健康課 福祉課
19	1-3生涯学習(スポーツ) 2-2健康づくり 2-3高齢社会・障害福祉	【No.18】関連 2章の「健康づくり」「高齢社会」の中で健康寿命のためのリーダー・指導者育成とかで入れるか、1章のスポーツのところに 入れるか考えてもらいたい。 健康寿命の増進に対する指導者づくりは健康づくりの方がなじむかもしれない。	増田会長	健康寿命のためのリーダー・指導者育成については、第2章の「健康づくり」「高齢社会」の中で標記願いたい。 ※スポーツと健康とは密接に関連するものと考えているが健康寿命からの視点による指導者育成については健康づくりの分野で記載するものと思います。 【社会教育課】 健康づくりは自己の健康及び体力づくりのために行うとの視点があり、住民が主体的な健康増進活動を行いやすくする環境作りは必要と考え、「健康大将」の運動教室への参加やウォーキングの取り組みを促しているところである。なお、たじりっち体操の運動推進員は育成しているものの、実践的な教室等には「健康運動指導士」などの資格者が行っているところである。なお、健康づくりは、自己の健康及び体力作りのために行うとの視点から、リーダーの育成は考えていない。【健康課】 P18 2-3高齢福祉・障害福祉(1)「④介護予防と健康づくりの推進」に「・介護予防・健康づくり推進のための人材育成」を追記【福祉課】	社会教育課 健康課 福祉課
20	P10、11 1-5国際化と平和の推進	国際化の中では多文化共生が一つ大きな目玉になる。多文化共生では、(稲本委員が言うような)外国人労働者を意識した施策はあり得るかどうか。	増田会長 (事前説明)	P11 (1)「②多文化共生のまちづくり」に「・日本語指導が必要な児童生徒、保護者への支援の充実」を追記【指導課】	企画人権課 指導課

21	基本計画P13、14 2-1安全・安心	安全安心では、情報の的確な発信と、情報が一人一人(の行動)につながることが重要だ。(津波被害に対してセンシティブになりすぎていることもあったが)情報戦略的なことがうまくいっているかどうか。「防災リテラシー」は課題に記載しているが、施策にも「防災リテラシーの向上」と書いた方がいいかもしれない。(津波のリスクはほぼないということが住民に正確に伝わっているかどうか。)	増田会長 (事前説明)	P14 (1)「②地域ぐるみの防災体制の確立」の「・防災意識の普及啓発、防災情報の提供」の記述を「・住民の防災意識の普及啓発と防災リテラシー向上」に修正、「・地震・津波や風水害など各種ハザード情報の正確な伝達と理解の促進」を追記。	危機管理課
22	基本計画P14 2-1安全・安心((1))災害対策)	災害対策の件で、今回の水害もあり、田尻町のハザードマップを探してみたが津波しかなかった。水害・洪水に対応したハザードマップは策定されているのか	×野委員	国や大阪府がその基準を今つくっているの、それが出たら田尻町の高潮に対するハザードマップを策定する計画はある。【事務局】	危機管理課
23	2-1安全・安心((1))災害対策)	災害は昔のレベルとは違うので、過去の事例だけを見てやると、10mの堤防でも壊れたので、今の自然災害のレベルに踏み込んだハザードマップを作って、各住民に周知してもらうことを入れてもらいたい。	×野委員	P14 (1)「②地域ぐるみの防災体制の確立」に「・地震・津波や風水害など各種ハザード情報の正確な伝達と理解の促進」を追記。	危機管理課
24	2-1安全・安心((1))災害対策)	地震の頻度より、毎年来る台風の風水害が酷くなってきている。そのようなことがきちんと盛り込まれているかどうか。もう一つ気になるのが、犯罪も含めて、8700人の町なので住民参加型のハザードマップ作りとか、通学路の危険箇所とかのマップ作りなどはないのか。	増田会長	社会福祉協議会で、子どもさんを集めて通学路の安全確認をする活動はされていた。【事務局】	危機管理課 学事課 生活環境課
25	2-1安全・安心	何年か前に「わくわく」で安全のワークショップを立ち上げて、安全マップは作った。	片岡委員	参考意見	危機管理課 福祉課 学事課
26	2-1安全・安心((1))災害対策)	【No.24】関連 「地域ぐるみの防災体制の確立」は、ハザードマップを作っても地域の人が認識していないのが問題で、ワークショップなどを通じてきちんと皆が認識することも大事だと思う。	増田会長	P14 (1)「②地域ぐるみの防災体制の確立」に「・地震・津波や風水害など各種ハザード情報の正確な伝達と理解の促進」を追記。	危機管理課 福祉課
27	2-1安全・安心((1))災害対策)	去年と今年も一度、田尻の幼稚園の近くで床下か床上浸水があったが、その原因は分かっているのか。	西浦委員	下水道からポンプ場に行っているが、田尻町だけの雨水ではなく泉佐野の上の方からも流れてきているので、田尻町でそれほど雨が降ってなくても山で降るとそこから大量に流入することがある。その場合全部受けると、ポンプ場が機能しなくなり全地域がつかれる可能性がある時には、ある程度を抑制している。その時は水が流れずある程度戻る現象が起こる。すべてを受け入れてしまうとポンプ場自体が機能しなくなるので、水量によって一定の制限をしている。【事務局】	危機管理課 下水道課

28	2-1安全・安心((1) 災害対策)	【No.24】関連 最近の都市型洪水は、河川の容量は余っているけれど下水管の容量が小さくて内水被害が起こる。マンホールが水圧で飛んだり、家の排水口から逆流することが起こる。地震や津波だけではなく、異常降雨や風水害に対することがきちんと盛り込まれているか。それは町だけではできないので府の動向も踏まえて盛り込めるように対応してほしい。	増田会長	P27 3-3生活環境「現状と課題」の下水道ではの文章に「また異常降雨等により昨今激甚化が進む風水害に対する浸水対策に取り組むとともに、」を追記、「基本方針」に「激甚化する風水害に対する浸水対策」を追記	危機管理課 下水道課
29	2-1安全・安心((1) 災害対策)	大阪府は880万人の訓練でメールの一斉送信訓練をやっている。台風や地震もいつ来るかわからない状況の中で、最初は行政主導になると思うが町でも独自で訓練をやってもらいたい。訓練について明記しておいた方が、何かしら動きやすいと思うので、ぜひ入れてもらいたい。	横上委員	P14 (1)「②地域ぐるみの防災体制の確立」の「防災訓練実施など自主防災会の活動支援、自主的活動に向けた人材育成」の記述を「避難訓練や情報伝達訓練などの各種防災訓練を自主防災会などと連携して実施」に修正	危機管理課
30	基本計画P14 2-1安全・安心((3) 防犯・消費生活・ 交通安全) 基本計画P23 3-1都市整備((1) 道路・地域交通)	3章の都市整備とも関係するが、今は道の拡幅はなかなかできないと思うので、交通安全対策で、一方通行にするとか、道は狭いままでも線を引くとか、交通対策で安全を確保する流れがあると思うので、密集市街地の狭隘道路に対する交通安全対策の記述があるとよいのでは。	佐久間委員	一方通行等規制に関する対策は所轄警察の許可が必要になり、町の現在の道路幅員から考えると困難と思われる。ラインについてはグリーンベルトの設置等も含め検討していく。 P14 2-1(3)「③交通安全対策の推進」に「・交通状況に応じた安全対策の検討」を追記 3-1(1)「②人にやさしい道づくり」【内容】・道路・歩道の危険箇所の改修の中には一方通行の規制ラインの改修等も含まれる。	都市政策課
31	2-1安全・安心((3) 防犯・消費生活・ 交通安全)	交通安全の部分で、密集市街地の狭隘道路に対する交通安全対策の記述が抜けていないかチェックをしてもらいたい。	増田会長	P14 2-1(3)「③交通安全対策の推進」に「・交通状況に応じた安全対策の検討」を追記	都市政策課
32	基本計画P15,16 2-2健康づくり	健康づくりでは、「ツーアップ・スリーダウン」でエレベーターを使わずに2階まではのぼり3階までは下りましょうというように、町域が2kmくらいなので極力歩きましょうというようなことは言えないのか。コンパクトな町で歩いて暮らせるので、日常的に歩けるようなまちづくり、(緑化も含めて)歩いて楽しいまちにつながるような施策展開が健康と絡めてできないか。	増田会長 (事前説明)	健康づくりでは、ふれあいセンターにおいて「階段利用」を啓発しているところである。 また、ウォーキングの取り組みは「健康ポイント」により既に住民に勧めているところであり、今後、りんくう北広場の完成によりウォーキングコースの整備も進展することから、ウォーキング教室を複数回開催するなど、「健康ポイント」との相乗効果も図っていく予定である。【健康課】	健康課

33	2-2健康づくり	(田尻町ではサービス付き高齢者用賃貸住宅の数がかなり増えているということだが、)要介護になってからではない健康づくりが重要だ。	増田会長 (事前説明)	健康づくりでは、生涯的な運動として全町民を対象とした「たじりっち体操」、20歳以上からウォーキングの取り組み、健康診断により、高血圧や運動不足の方への各種健康教室や講座への参加案内などを通じて健康維持と体力増進を図っているところである。【健康課】	健康課
34	2-2健康づくり	生涯にわたる元気づくりで、食育と農業育成がつかないか。	増田会長 (事前説明)	食育においては、町民の健康に関して「塩分摂取が多い。」という特徴があり、減塩の啓発を進めているところである。 なお、食育においては、地産池消を薦めているところであり、春キャベツや玉ねぎ、里芋など季節の野菜や大阪湾の海産物(タコ)を使った献立を食育講座で調理しているところである。【健康課】 イメージの段階だが、漁港振興広場に直売所的なものを作り地元のとれた野菜を提供できたらと考えている。(地産地消)また貸農園・福祉農園が出来れば季節の野菜を育て食べることが出来、食育にも通じる。【産業振興課】	健康課 産業振興課
35	基本計画P19、20 2-4地域・社会の 支えあい	「地域・社会の支えあい」は大きな課題だ。未組織率が増える中で、少しでも組織率を上げていけるようなことに関して、移転してきた人に自治会の活動をきちんと紹介するようにという話が前回審議会でも出ていた。そのようなことの充実策がもう少し強くあってもよいように感じる。また組織が弱っている所の下支えのようなサポートができるような仕組みがあるといい。	増田会長 (事前説明)	P45、46 戦略プロジェクト「みんなでまちを楽しむ、地域を支えるコミュニティづくり」で対応	企画人権課
36	基本計画P22、23 3-1都市整備	下水管の指摘があったが、異常降雨にどのように対応するかをどう書くか。川は水を受ける容量があるのに、下水の容量がないので床上浸水が起こることなので、そのあたりをどう書くかを検討してもらいたい。 日本では土地がないので、なかなかできないが、海外では、グレイインフラからグリーンインフラにということが言われている。今までのU字側溝とかPC管でやっていることを、もう少し自然流路に近い形や、地下浸透させるなどの機能を持った形に変えていく話が出ている。	増田会長	側溝等の改善は町の景観にも寄与し道路に親しみも持たれることから、有意義ではあるが、隣接家屋等との高さ調整もあり、費用面、施工検討も含めしっかり議論をした上で方針決定を行い進めていきたい。 地下浸透については道路では透水性舗装に近いものと考えられるので、側溝等の改善と併せて進めていきたい。【都市政策課】	都市政策課 下水道課

37	基本計画P23 3-1都市整備((1) 道路・地域交通)	【No.30】関連 密集市街地の狹隘道路に対する交通安全対策の記述がある とよいという佐久間委員の意見は、p23「人にやさしい道づく り」に「道路・歩道の危険箇所の改修」にあたると思う。	増田会長	「道路・歩道の危険箇所の改修」の中には一方通行の 規制ラインの改修等も含まれる。	都市政策課
38	3-1都市整備((1) 道路・地域交通)	p23「(1)道路・地域交通②人にやさしい道づくり」に「道路・ 歩道の危険箇所の改修」とあるが、実行プロセスで、危険箇 所のどういう情報を集めて、どういう形で改修していくか、何か プランがあるのか。というのは、PTAの会議でも結構細かいコ アな所の危険箇所の情報はあつた。それが実際に行政まで情 報として上がってきているのかどうか疑問がある。朝、街角に 立っていると、公民館の前は少し坂になっていて、朝通勤で急 いでいる人がスピードを出して危ない。そのような情報は 聞いていても、行政の方になかなか相談しに行きにくい。結構 危ないところは現場でわかるが、なかなか言い出せないよう だ。実際に事故が起きてから何か対応するよりは、行政側は 言われたらそこが危ないとわかる。そのような実行プロセスの ところも明記しておいた方が、行政側としても動きやすいので はないかと思う。	横上委員	2-1安全・安心((3)防犯・消費生活・交通安全)の記 載のとおり通学ルート安全推進会議を年1回実施し、危 険箇所の把握を行い、職員での日頃の巡回等で危険 箇所を見つけた場合は危険度の度合いを判断し修繕し ている。 公民館前については町も理解しており、現在管理者で ある大阪府と所轄警察に対応策を調整している。 また、町議会議員経由で住民からの意見も頂いており、 町に直接言いにくい場合は地区会長、各種団体経由で 匿名で申出て頂いても対応をしていく。 P23 (1)「②人にやさしい道づくり」に「・住民、道路管 理者、警察、各種団体が連携した道路状況の把握と対 応策の検討」を追記	都市政策課
39	3-1都市整備((1) 道路・地域交通)	【No.38】関連 道路・歩道の危険箇所について、まず危険箇所を皆で共有す る仕組みがあつて、次にその危険箇所を改善するということ を書いておいた方がいいと思う。住民参加型でハザードマップを 作るようなやり方で、それがちゃんと行政の資料になるような ことが必要ではないか。	増田会長	過去に交通安全総点検を実施、警察と「ヒアリマップ」の 作成を行った事例はあるが、近年では通学ルート安全 推進会議がそれに近いものと考えられる。 P23 (1)「②人にやさしい道づくり」に「・住民、道路管 理者、警察、各種団体が連携した道路状況の把握と対 応策の検討」を追記	都市政策課
40	3-1都市整備((1) 道路・地域交通)	地域交通の充実で「広域連携によるコミュニティバスの運行」 は商業施設も通っているのか。	増田会長 (事前説 明)	商業施設は通っていないので、りんくうタウンや泉南の イオンまでつなげてほしいという意見が前回審議会で出 た。そのような検討はしていないといけませんが、今の バス(泉佐野市と共同で南海バスに運行を委託)を充実 する方向である。【事務局】	都市政策課

41	3-1都市整備((1)道路・地域交通)	【No.40】関連 りんくうタウンへのコミュニティバスが、町域にとどまらない生活域で必要という意見が出ていたが、それは盛り込まれているのか。町の人は吉見ノ里駅にも行くが、りんくうタウンにも結構行かれる、あるいは隣の泉南市のイオンに行く、そのようなことも可能なようなコミュニティバスができていくかどうか。コミュニティバスは医療センターに行くというイメージしかなかったものを、ビジネスにもとなれば大分違ってくると思う。	増田会長	p23「(1)道路・地域交通④地域交通の充実」の「広域連携によるコミュニティバスの運行」は、田尻町内だけではなく広域的なバス路線も含めた意味合いで入れている。りんくうタウンについては今年5月から泉佐野市との連携でコミュニティバスが通っている。但しビジネスに使うような時間帯には走っていない。【事務局】 たじりっちバスの運行に関しては、泉佐野市と共同運行することにより、町内施設だけではなく、多くの町民が利用している泉佐野市内の施設を巡回するコース設定としており、当面は現在のコースを基軸とします。今後、利用者アンケート等によりニーズを把握し、泉佐野市、バス運行会社と協議の上、意見反映が可能となる場合は検討を行います。【都市政策課】	都市政策課
42	3-1都市整備((1)道路・地域交通)	コミュニティバスが出ていると言っても、どこに行くのかよく知らない。1時間に1本ぐらい出ていることは知っているが、外から町にきた人にきちんと説明ができない。そういうところを何とか充実できないか。	西浦委員	P23 (1)「④地域交通の充実」の「・広域連携によるコミュニティバスの運行」を「・広域連携によるコミュニティバスの運行、利用促進」に修正	都市政策課
43	3-1都市整備((1)道路・地域交通)	【No.40、41】関連 泉佐野市は土日に観光バスを市内に走らせているが、それが田尻漁港まで来ないか、そういう交渉はできないのか。	増田会長	現段階では、難しい。漁業振興広場の熟成が必要と考える。	産業振興課
44	3-1都市整備((1)道路・地域交通)	国際センターは、ルートの的に人が動いてはいないのか。研修で移動する人は、りんくうタウンエリアでの行動パターンに近いような気がする。泉佐野駅の近くでは、ただで乗れるバスがあるということを外国人は口コミで情報共有をしていて、人が動いている。	稲本委員	国際センターのバスという形で一般の方は乗れないが、国際センターとりんくうタウン駅を直通で運行している。【事務局】	産業振興課
45	基本計画P23 3-1都市整備((2)市街地整備)	にぎわい交流ゾーンの中で、今、りんくう北広場の整備、公園の再整備をされているが、それはどこに出てくるのか。	増田会長	p23「(2)市街地整備②にぎわいを生む町の顔づくり」に「にぎわい交流ゾーンの整備」が書かれている。ハード整備については、りんくうポート北地区に整備している公園については今年度中に完成する。大阪府の事業になるが、りんくう公園の未整備区域についても、この総合計画の期間内に一定の整備が進められていく。【事務局】	都市政策課

46	3-1都市整備((2)市街地整備)	公園等の空間整備では、できあがったものをうまく使いこなしていくためにどのようにしていくのか、民活をするのか、住民の力を使うのか、管理運営の視点を入れて置かないと、ハードだけではおさまらないのではないかな。	増田会長	P24 (3)「⑤協働によるみどりのまちづくり」の「・住民参画による公園づくりや利活用」を「・住民参画による公園づくりや利活用、管理運営の促進」に修正	都市政策課
47	基本計画P23 3-1都市整備((3)景観形成と公園・緑化)	p23で「田尻らしさ」とは何か、漠然としている。私の個人的な考え方だが、私は「田尻らしさ」は豊かな財政に裏打ちされた「豊かさ」にあるのではないかなと思う。「田尻らしさ」はどのような考えで使っているのか。	伊藤副会長	人によってとり方は様々だと思うが、この景観の部分で「田尻らしさ」は、どちらかというとな経済的な「豊かさ」というよりは、都市近郊に農地が広がっている、コンパクトな中に多面的な景観があることが特徴的で、町の特色だということを捉えて「田尻らしさ」という表現をしているとご理解いただければと思う。【事務局】	都市政策課
48	3-1都市整備((3)景観形成と公園・緑化)	【No.47】関連 「田尻らしさ」という言葉がわかりにくければ、「田尻町の特徴を生かした」というような表現がいいかもしれない。「田尻らしさ」と言うと非常にあやふやになってしまい、わからない。	増田会長	P23 (3)「①景観の保全と創造」の「・田尻らしさを演出する景観の保全と創造」を「町の特性を活かした景観の保全と創造」に修正	都市政策課
49	3-1都市整備((3)景観形成と公園・緑化)	都市整備で、「公園緑地の充実」とは府営りんくう公園のことか。りんくう北広場とりんくう公園の連携など少しハード整備のこともいるのではないかな。	増田会長 (事前説明)	P23 (3)「④公園・緑地の充実」に「・にぎわい交流ゾーンにおける府営公園との連携」を追記	都市政策課
50	基本計画P25、26 3-2住宅・住環境	住宅については、空き家空き地の管理と、流通・流動化が課題だ。高齢者が大きな家に一人暮らしで使われていない部屋があるような所にどのような対策をするか。次に求めている人にどのように渡していけるか(流通)ということになる。	増田会長 (事前説明)	空家の数はまだそれほど多くないが、高齢者が大きな家に一人暮らしという低密度化は進んできて、いずれ空家になる予備軍は徐々に増えつつあると思う。【事務局】	都市政策課
51	基本計画P26 3-2住宅・住環境((2)良好な住環境づくり)	田尻町では空き家がどんどん増えている状況なのか。住宅政策としては、古い住宅をうまく流通させる仕組みを入れておかななくてもよいのか。	増田会長	田尻町空家対策計画を昨年度策定した。空家が次々とできる状況にはなっていないが、一人暮らしの方が増えてきて、低密度化、空家予備軍のような形が徐々に増えつつある。施策内容としてはp26の(2)「③空家や空地対策の推進」になる。【事務局】	都市政策課
52	基本計画P29、30 3-4緑の環境保全	「緑の環境保全」は、緑づくりでもう少し色濃くした方がいい。ちょっとした街角緑化などを入れるなど。昔は大阪市内で1㎡緑化のような話で、庭先や玄関先をちょっと緑にして、そういうことでも歩いていて豊かさを感じるような街にというようなことをやったことがある。	増田会長 (事前説明)	P30 (1)「①水と緑の環境づくり」に「・住民参加による緑化の推進」を追記【産業振興課】 ※人生の節目(新築・子の誕生・入学・成人・銀婚・金婚)を記念に記念樹配布事業を計画中 (稲本委員意見) 住民の意識の持ち方により、エリアによって取り組み方に差が出る。景観に対する価値観を見出せる施策の実施。	都市政策課 産業振興課

53	基本計画P31、32 3-5産業振興	農業振興の中で目玉として、泉州玉ねぎなど名産品づくり、給食での地域農産物の利用など食育と地産地消があるのではないか。	増田会長 (事前説明)	P32 (1)「②都市型農業の振興」内容「・泉州黄たまねぎのブランド化の推進」で対応 ※泉州黄たまねぎ(吉見早生)の特産品づくりにとりくんでいる。(たじりたまねぎ発祥の地協議会) 学校給食では、JA泉州農協より地産地消のため各種野菜を活用	産業振興課
54	3-5産業振興	前回審議会で、従来の漁業をするのではなく魚釣船など観光漁業に変えていきたいという話があったので、稼げる漁業にどう変えていくかをもう少し踏み込んで書いた方がいいと思う。	増田会長 (事前説明)	P32 (1)「①観光漁業の推進」で対応 ※田尻漁港の活性化のため、PR事業等(観光面)で町パンフ・ラッピングバス動画等活用。(田尻漁港の管理者は大阪府)	産業振興課
55	3-5産業振興	産業振興で、コミュニティビジネス的なスモールビジネスで、在宅で仕事ができるような可能性は、このエリアにはないのか。そういうものを掘り起こして、住みやすい街、住みたい街にするというような可能性はないのか。	増田会長	在宅での仕事ではないが、観光協会との連携による直売所の設置を検討している。今後の事業展開によっては、コミュニティビジネスにつながる可能性がある。	産業振興課
56	3-5産業振興	農業委員会に、町内に八百屋さんを作ってはという話はもらっているが、毎日それをするのは難しい。日曜の朝市もあるのでそれとかぶらないようにして、なおかつ店としてやるなら10数種類の野菜を常時置いておかないといけない。それは非常に難しいので、家庭菜園で結構たくさん野菜を作っている人がいるので、そういう人たちに対して野菜を出してもらえるような制度を町の方から呼びかけてもらったらと話している。農業委員会の我々農家と、家庭菜園をやっている人たちとは田んぼで姿は見かけるが、なかなか接点がない。そのあたりのセットアップを町の方で呼びかけてもらおうと、やりやすいかと思う。	〆野委員	イメージの段階だが、漁港振興広場に直売所的なものを作り地元のとれた野菜を提供できたらと考えている。当面は、日曜朝市の施設を借りて、平日の野菜の販売を考えている。集荷・販売については、観光協会と連携し、コミュニティビジネスにつながればと考えている。	産業振興課

57	3-5産業振興	【No.56】関連 施設整備をして店舗を構えるのではなく、青空市のようなものでもいいし、仮設店舗的なものの中で、余剰にできたものを持ち込んで売れるような仕組みになると、日常生活をサポートできる。また、吉見ノ里駅の所の商店もほとんど開いてないが、これからの商業は小売り店舗だけでは食えないので万屋さんのようなことをできないか。老人介護の福祉施設と朝市が一体になった施設が泉北ニュータウンには実際にある。近隣センターで店が閉まったスーパーの後に介護施設ができたが、地域から総スカンを食って、老人介護施設だけれど朝市をやる、週に2、3回コミュニティカフェをするという形で万さん的な介護施設になっている。そのような展開が小さな町の中で必要になってくるのではないかな。産業振興だと話が大きすぎて、今のような話はなかなか入らないが、そのような手づくりの振興策が入らないか。	増田会長	イメージの段階だが、漁港振興広場に直売所的なものを作り地元のとれた野菜を提供できたらと考えている。当面は、日曜朝市の施設を借りて、平日の野菜の販売を考えている。集荷・販売については、観光協会と連携し、コミュニティビジネスにつながればと考えている。	産業振興課
58	3-5産業振興	民間の企業がこういう事業をやりたいので田尻町の中でいい土地がないかとかいうような話はないのか。積極的な誘致とかではないが、町の部署でそういうことはしていないのか。	横上委員	かつてりんくうタウンに関しては、空き地が多かったこともあり特別の条例を設けて窓口も設けて民間企業との橋渡しをしていた実績はあったが、現状ではりんくうタウンはもうかなりうまってしまった。現在は内陸も含めて、そのような窓口として積極的な活動はしていない。【事務局】	産業振興課
59	3-5産業振興	産業振興をやるというのであれば、民間企業は必ずホームページを見ているので、先ほどの農業の土地の活用の仕方なども、積極的にホームページに載せて民間企業が入ってくれば、小さくてもベンチャー企業は儲けがあれば食いついてくるのではないかな。農作物も、店舗はリスクが高いが、いいものがあれば民間企業が農家買いに行き、どこか適切な所に持っていき流通経路ができれば売れる。農家は農作物は作ってもその流通というハードルが高い。毎朝出すのはすごい手間になるが、そこをやっている企業に外注できれば流通ができて続いていく。そういうことを明記しておけば次につながっていくのではないかな。	横上委員	参考意見	産業振興課

60	3-5産業振興	最初に国際化の話はあるが、外国人就労についてはどこか記述しているのか確認してもらいたい。	佐久間委員	外国人就労がこれから増えていくということに関しては、第1章の多文化共生のところに複合的に施策を考えている。産業振興のところにもそのような視点はあってもよいと思う。【事務局】 P32 (2)「②雇用・就業」に「・外国人のための就労支援」を追記【産業振興課】 ※ハローワーク等との連携による、外国人のための就労活動応援セミナーや、中小企業者向けの外国人雇用セミナーの実施	産業振興課
61	基本計画P33、34 3-6歴史・文化	p34歴史文化のところで、緑がある神社や寺は雰囲気があり、若い人も好きな人はいる。田尻町では難しいかもしれないが、庭といえば京都や奈良では観光の名所にもなっている。神社や寺が緑と融合すると効果的で、きれいになれば散歩に行こうかという気にもなる。そういうことも記載されたいと思う。	横上委員	P34 (1)歴史的文化遺産の保存と活用①郷土の歴史文化の理解促進【内容】・地域の伝統、祭りなど歴史文化の情報発信 ※施設情報の発信をすことに、散歩などで立ち寄る機運をつくる。	社会教育課
62	3-6歴史・文化	「田尻歴史館の地域文化拠点としての活用」にもう一步踏み込んで民活を入れるようなことを書けるかどうか。活用の視点をもう少し踏み込んでいいのではないか。	増田会長 (事前説明)	愛らんどハウスは今年から工事に入っているができればるのは3年先だが、館の周りの庭を利用してミニイベントは継続している。【事務局】 P34 (2)文化芸術活動①文化芸術に触れる環境の充実【内容】・公民館、ふれ愛センター・田尻歴史館など町施設の積極的活用 ※「町施設の積極的活用」に指定管理者制度等の活用を含んだ表現となっている。【社会教育課】	社会教育課
63	基本計画P37 4-1参画と協働の まちづくり((1)広 報・公聴)	広報を自治会を通じて配布していて、自治会組織率が下がってくると配布が大変ということが結構大きな課題になるが、広報たじりは配布に苦労していないか。広報は子育ての情報など、結構人は見ている。それが届かない世帯が出てきた時にどうするか。	増田会長	ポスティング業者による全戸配布を検討する必要があるが、地区会加入のメリットの一つとして広報紙が配布されることがあるため、業者による広報配布を行った場合、さらに地区会加入率が低下する恐れがある。	企画人権課
64	4-1参画と協働の まちづくり((1)広 報・公聴)	非地区会員さんには広報たじりが届いていないのが実態だと思う。	伊藤副会長	参考意見	企画人権課

65	4-1 参画と協働のまちづくり((1) 広報・公聴)	広報はホームページには掲載されていると思うが、年を取ってくるとタブレットなどは、なかなか使わないので、ケーブルテレビの情報チャンネルで田尻町の広報の内容を発信すれば結構見るのではないかな。メディアとしてはテレビが一番見られていると思う。	横上委員	イベントの情報はテレビ視聴者に伝えやすいが、広報紙の大半を占める行政情報は細かな制度や手続き案内が含まれるためテレビでの情報発信は向いていないと考える。行政情報の発信は、今後も引き続き広報紙、ホームページ、たじりっちメール、ケーブルテレビ等のツールを用いていく。	企画人権課
66	基本計画P36、37 4-1 参画と協働のまちづくり	パソコンの普及率はどうかな。駅前で高齢者のためのパソコン教室とか、手取り足取り教えることができる人口規模だと思う。全部の家にパソコンがあれば広報を配布しなくても済むようなことも、田尻町の規模ならできるのではないかな。いかに高齢者を外に引っ張り出すかも大きい。	増田会長 (事前説明)	駅前整備でコミュニティスペースを整備して、そこで住民が集えるようにという計画はあるので、その活用の一つとしては考えられる。高齢者に街中に出てきてもらう場所をつくり、高齢者の元気づくり、居場所づくりの考えはあるので、そことうまく融合できるといい。【事務局】	企画人権課
67	基本計画P38、39 4-2 行財政運営	行財政の中で、ITを使って効率を上げるという話はないかな。職員の仕事のIT化や自動化など。	増田会長 (事前説明)	P39 (1)「④行政情報化の推進」【内容】庁内情報システムの充実で対応記載。情報管理システムの充実を進め、事務の効率化を図る。【事務局】	総務課
68	4-2 行財政運営	行政運営で進行管理や行政評価はどこに出てくるのか。総合計画の進行管理はどうするのか。	増田会長 (事前説明)	総合計画の進行管理は5年目にする。実施計画をつくり毎年進行管理をするのが正しいやり方だが、マンパワーの面でどうしてもうまくいかなかった。すべてを進行管理するのではなく、各個別計画にまかせる。戦略プロジェクトや、総合戦略に抜粋した一部施策については、毎年進行管理をしていこうと考えている。【事務局】	企画人権課 総務課
69	4-2 行財政運営	外部評価、財政評価、進行管理はどこにも出てきていないようだが。まち・ひと・しごと総合戦略では委員会を作り進行管理をしているが、そのような進行管理について抜けているような気がする。p39「各施策の進行管理や事業評価の推進」とあるが、この小項目でいいかどうか。大項目として扱っておかなくてよいかどうか。	増田会長	基本計画には表現として出ていないが、p37「行財政運営」に入る。【事務局】	企画人権課 総務課
70	基本計画P40、41 4-3 広域連携	広域連携は大事だと思うが、具体的には今は観光などどのようなものがあるのか。	増田会長	広域連携にはいろいろなパターンがある。観光に関しては堺から南の岬町まで13市町で1つの組織を作って進めている。それ以外には、権限委譲という形で、大阪府から市町村に様々な権限の委譲を受けていっているが、これをある程度広域的に処理するために、福祉関係では泉佐野から南の3市3町が協働で処理するための広域福祉課という組織を作って、広域連携を進めている。【事務局】	企画人権課

71	基本構想P21 戦略プロジェクト	「①保幼小中一貫教育の推進」は、教育だけではなく、まちの活性化やまちの魅力化につなげられないか。「保幼小中一貫教育の推進によるまちの活性化・魅力化」など。住宅政策やまちの再生につながるようなことができないか。学校用地の拡大による周辺市街地への波及効果など。	増田会長 (事前説明)	基本計画P43、44 戦略プロジェクト「まちの魅力につながる保幼小中一貫教育の推進」で対応 (稲本委員意見) 子ども同士、保護者同士のコミュニティから外れた人の受け皿の整備が必要	指導課 学事課
72	戦略プロジェクト	「③地域を支える仕組みの再構築」は、従来組織の再構築だけではなく、地域組織をサポートするコミュニティビジネスのような方向も盛り込めないか。就業の場の確保やいろいろな公共事業をアウトソーシングしてコミュニティビジネスを生み出すことの一つが、地域を支える仕組みの再構築。にぎわい交流ゾーンの運営の担い手、交流広場の施設の運営なども含めて考えてはどうか。仕組みの再構築だけでなく、そのような広がりを持った仕組みづくりを入れられるタイトルにする。	増田会長 (事前説明)	基本計画P45、46 戦略プロジェクト「みんなでまちを楽しむ、地域を支えるコミュニティづくり」で対応	企画人権課